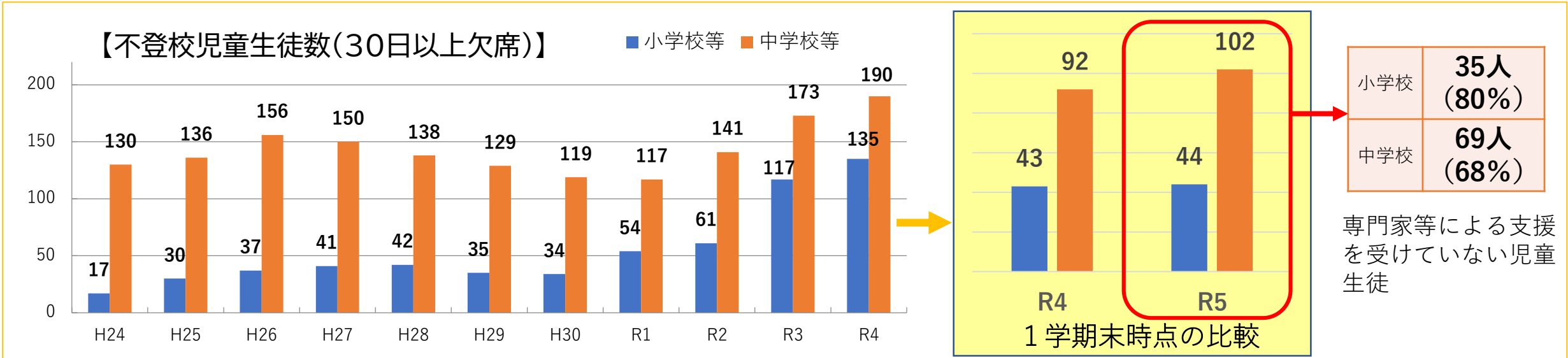


# ～不登校の現状と対策～



- ・ 1学期時点で、過去最多となった令和4年度を上回った。
- ・ 小学校では、スクールカウンセラー等の専門家による支援を受けていない児童の割合が極めて高い。

【対策1】 SCを活用したアセスメントの実施

(府スクールカウンセラーの配置)

- ・ 中学校区、義務教育学校に週1回
- ・ 小学校2校に週1回

→小学校のニーズには十分に答えられていないため、府に配置拡充を要望

(市カウンセラーの配置)

- ・ 小学校2校に週1回

→教職員とのアセスメント、アウトリーチ型支援により、登校状況改善、家庭との関係構築

【対策2】 学生フレンドの派遣拡充

支援の状況	R4	R5 (10月時点)	うち、26人が校内教育支援センターで過ごす
児童生徒	23人	42人	
登録学生	21人	55人	

・ 家庭での相談支援  
・ 校内教育支援センターでの学習支援

→ 個に応じた支援

【対策3】 教職員研修の実施

テーマ (R5)	講師
アウトリーチ型支援とカウンセラーと協働した校内連携	市教育専門相談員
SSW等の専門家と連携した子ども理解	府教育庁SSWスーパーバイザー
不登校の子どもたちへの支援と適応指導教室	適応指導教室指導員

適切な初期対応による未然防止、専門家等との連携に向けた教員のスキルアップ

～今後について～

# すべての子どもたちを支援するために

～長期化・深刻化の防止に向けて～

## 専門家の配置

### 【市のカウンセラー配置状況】

- ・ 小学校2校に週1回
- ・ 教職員とともにアセスメント
- ・ 子どもたちや保護者のニーズに応じたアウトリーチ型の支援

しかし

専門家等による支援を受けていない児童生徒が未だ多い

R5 1学期末時点で  
欠席30日以上の子供生徒のうち  
専門家の支援を受けていない人数

小学校	35人 (80%)
中学校	69人 (68%)

( )は全体に占める割合

スクールカウンセラー  
による支援の拡充  
が必要

## 多様な学び

在籍校への登校が難しい・・・市適応指導教室(ふれあい教室)

家から出ることが難しい・・・ICT活用等による学習課題・オンライン授業の提供

登校しても教室に入れない・・・校内教育支援センター(別室登校)

学校に行きたいけど不安・・・学生フレンドの活用

学校への抵抗感が高い・・・フリースクールとの連携→今後検討

「すべての不登校  
児童生徒が学びに  
アクセス」できる  
状況を確保